令和３年度第２回　大田区地域包括支援センター運営協議会議事要旨

１．開催日時

　　令和３年11月18日（木）午後１時30分から午後３時00分まで

２．会場

本庁舎　11階　第５・６委員会室

３．出席者

　 （委員）　奈良会長、工藤副会長、高峰委員、神山委員、井上委員、常安委員、中原委員、清水委員、荒井委員、小林委員

　　（区） 　今岡福祉部長、近藤福祉支援担当部長、長谷川福祉管理課長、若林福祉支援調整担当課長、小西介護保険課長、原介護サービス推進担当課長、浅沼大森地域福祉課長、池調布地域福祉課長、吉田蒲田地域福祉課長、澤糀谷・羽田地域福祉課長、黄木高齢福祉課長(元気高齢者担当課長兼務)、事務局

　　（傍聴者）　７名

黄木課長　　・事務局を担当させて頂く。よろしくお願いしたい。

　　　　　　・本日の議事は協議事項３点、報告事項２点を予定。

奈良会長　　・ご存じのように新型コロナウイルスが皆さんの暮らしに大きな影響を与え、色々な話題が出ている。

・感染症のパンデミック禍における調査にて、人々の行動の変化について報告があった。チャリティ活動が増えており、特に高齢者の活動の増加が顕著であるという報告であった。国際協力といった従来のチャリティ活動から、地域活動への変化があり、より身近なものに目が向けられていることが分かった。

・そのような中で、よりよい包括ケアの実現に向け、運営協議会としても貢献できればと思う。

　　　　　　・本日は活発な議論をお願いしたい。

今岡部長　　・今回、提言内容についての協議が大きな議題の柱となるが、その中で複合課題の対応についても取り上げられている。区では重層的支援体制整備の構築に向け、様々な部署と相談を行っている。地域包括支援センターで担っていただく役割も重要となってくる。ご意見を賜れればと思う。

黄木課長　　・これ以後の進行は奈良会長にお願いしたい。

奈良会長　　・協議事項ア「新委員の紹介及び副会長の選任について」事務局から説明をお願いしたい。

黄木課長　　・大森医師会の鈴木　央委員が退任し、後任として同じく大森医師会の工藤　千秋委員に替わった。（参考資料２）

・また、区の人事異動により区側の出席者が一部変更になった。

黄木課長　　・これまで副会長は退任した鈴木　央委員にお願いしていた。要綱では委員の互選となっているので、改めて選出をお願いしたい。

奈良会長　　・それでは副会長の選任に移りたい。大森医師会の工藤委員にお願いできたらと思うがいかがか。

各委員　　　　≪異議なし≫

奈良会長　　・大森医師会の工藤委員を副会長に選出することについて、多数の出席委員が賛同したと認められたので、本協議会は工藤委員を後任の副会長とする。

工藤委員　　・微力ながら副会長の大任を務めさせていただく。よろしくお願いしたい。

奈良会長　　・協議事項のイ「第７期運営協議会における提言内容について」、事務局より説明をお願いしたい。

黄木課長　　・協議事項のイ「第７期運営協議会における提言内容について」の「資料１」について説明。

・この第７期運営協議会は本年度が最終年度のため、今期の終わりに第７期の提言書を頂くこととなる。

・第７期のこれまでの運営協議会での議事をもとに作成した「提言」素案について、各委員から事前に頂いた意見も踏まえたものが資料１となる。

・第７期運営協議会の提言内容のテーマ案は、５項目。

**・**テーマ案①では、地域包括ケアシステムの深化・推進に向けて、提言案として（１）複合課題を抱える方への支援や多機関との連携の強化、（２）地域での交流・参加の機会の創出に向け、センターとシニアステーション事業の連携強化や発展、（３）センターが地域に根差した相談機関となるよう地域づくりを行っていくこと、そして今回、頂いたご意見の中で、専門職や相談機関へ相談できる機会の必要性についてのご意見を踏まえ、（４）センターが専門職や相談機関を活用しながら複合課題や虐待ケースへ対応を行えるよう、助言や指導を受ける機会の整理や協力体制の構築を行っていくこと、を提言案としている。

・テーマ案②では、地域包括支援センターの機能強化・業務の効率化について、提言案として（１）人材育成については運営受託法人の支援も含めた体制でのセンター職員の育成の実施を行うこと、（２）多様なニーズや地域の特性に合わせた支援が行える体制づくりに向けて、研修等を充実させること、（３）業務の効率化やＩＣＴ活用の観点から、ｗｅｂ会議等の活用をしていくこと、そして今回頂いた多機関との連携による支援及び連携強化の必要性についてのご意見を踏まえ、（４）センターの機能強化や質の向上についてはセンターのみの取組ではなく、多機関やセンター間での連携が図れるよう支援すること、を提言案としている。

・テーマ案③では、事業評価のありかたについて、提言案として（１）事業実施の可否だけでなく、他機関との連携やつながりなど、ソフト面での取組も含めた評価をすること、（２）事業評価にあたっては多角的に第三者の視点をもった評価が行えるようアンケートを実施していくこと、（３）区からセンターへの一方的なやり取りではなく、運営受託法人も含め、相互の意見交換が行われるよう工夫をしていくこと、そして今回頂いた各センターでの事業達成状況の共有化を図るべきというご意見を踏まえ、（４）各センターでの取組状況の可視化を図っていくこと、を提言案としている。

・テーマ案④では、認知症施策推進への取組について、提言案として（１）認知症検診や受検者のセンターへの情報提供の仕組みを活用しながら認知症予防に取組むこと、そして今回頂いた、認知症の支援及び若年性認知症の方への支援も含めて体制整備を行うようにというご意見を踏まえて、（２）認知症についての理解促進や、（３）若年性認知症の方への支援の拡充や周知に努めること、を提言案としている。

・テーマ案⑤では、災害時や感染症発生時における事業継続に向けた取組について、委員からは、避難行動要支援者名簿の更新にあたっては、各地域に合わせたやり方を特別出張所等の行政も一緒に検討してもらえればというご意見を頂戴している。今回、提言案として（１）災害時や感染症発生時等の非常時においてもセンター機能の維持ができる体制をつくっていくこと、（２）コロナ禍を経て経験した知見や視点について、各センター間で共有が行えるようにしていくこと、（３）リモート環境の整備に向けた対応に尽力すること、を提言案としている。

・以上の第７期の提言内容について、ご協議をお願いしたい。

奈良会長　　・取りまとめてもらった案や説明に対して皆様の意見等を寄せてほしい。

清水委員　　・今回の意見の集約が最初は紙だった。最終的にはメールでデータを頂いて回答したが、最初からメール等の方法でよかったのではないか。

奈良会長　　・電子化の流れの中で、今後工夫をお願いしたい。

・原案を取りまとめる中で、複合的な課題や虐待等具体的な事例を提言（案）にどう盛り込むのかご苦労したと思うが、個別事案ではなく包括的なまとめ方となっているのはこれでいいように思う。

中原委員　　・テーマ案①（１）複合課題について『積極的に情報提供』となっているが、お互いやり取りが必要なので『情報交換』としたらどうか。テーマ案①（２）『センターとシニアステーション事業の連携強化』となっているが、シニアステーションだけでなく多様な事業との連携が必要なので『シニアステーション等多様な』と幅を持たせたらどうか。

・地域共生社会の実現に向け、センターの仕事の範囲が広くなってきている。センターは６５歳以上を中心にとなっているが、８０５０問題等をはじめ他の機関との連携が必要になるため、壁を緩やかにして幅広く柔軟性を持たせるような形で触れていただきたい。

奈良会長　　・中原委員からの『情報提供』ではなく『情報交換』ではどうかとのご意見、また、多様な通いの場の形がありうるというご指摘はその通りだと思う。また地域共生社会の実現に向けて６５歳以上を中心にするとしても、いろいろなところとの乗り入れ・交流が必要なのはその通りなので、そこに線を引くだけでなく表記の工夫をしてほしい。

高峰委員　　・参考までお聞かせ願いたいのだが、新型コロナワクチンの接種があったが、地域包括支援センターへの問い合わせ、センターと区との連携、３回目のワクチン接種に向けての準備等について伺いたい。

黄木課長　　・コロナワクチン接種については、センターにおいても質問の受付や接種予約の支援等を行ったほか、区の窓口の案内等を行ってもらった。３回目のワクチン接種については実施方法等を区で検討している段階なので、今後協議しながら進めていきたい。

　　　　　　・ワクチン接種にあたっては、医師会を始め、関係機関の皆様にご協力を頂いている。この場を借りて感謝申し上げる。

奈良会長　　・高峰委員のご質問の趣旨を提言（案）に盛り込むとしたら、テーマ案①の相談・支援機能や、テーマ案⑤の災害時や感染症発生時の項目あたりが考えられると思うが、事務局で検討いただきたい。

・他に質問・意見があるか。

清水委員　　・テーマ案④の提言（案）の欄に高齢者のボランティア活動を増やすとなっている。センターで福祉関係のボランティア保険の受付はできないだろうか。

黄木課長　　・社会福祉協議会がボランティアセンターを運営し、ボランティア保険も扱っている。保険については引き続き社会福祉協議会で扱ってほしいと考えている。

中原委員　　・社会福祉協議会では、おおた地域共生ボランティアセンターでボランティア保険の受付をしているので、ご活用いただきたい。

・チャリティ活動の増加については、仕事がなくなった・減った、フリーランスの方が困っているなどの他、食事にも困っているという例もある。社会福祉協議会ではフードドライブ事業で、食品をあげたい人・必要な人との橋渡しをしている。高齢者のチャリティに関する関心も高く協力者も多い。

奈良会長　　・ボランティアがさらに活発になること、センターとの関連においては、よりボランティアが定着し発展していくよう、提言ができたらいいと思う。

神山委員　　・多機関の連携について、情報交換を行うのは大前提で、現場では、例えばセンター職員、警察の生活安全課、子ども家庭支援センターとの連携などがあるが、職員同士での連携だけでなく組織同士で連携しないと職員の異動で体制・対応が変わってしまう。連携の体制づくりは重層的支援体制整備に向けた方向性にもなるかと思う。

　　　　　　・提言の内容に異論はない。

奈良会長　　・持続・発展という点では、熱心な人だけというわけにはいかないので、大切な観点だと思う。

工藤委員　　・センターでの安全性についての事例。

・あるセンターで土曜日の午後に女性スタッフ一人の時に、精神不調の来訪者が大暴れをして若干の器物破損もあり、スタッフが恐怖を感じたとのこと。ほかにもスタッフが一人になる時間があるセンターもある。スタッフの安全性の確保について提言に入れてほしい。

黄木課長　　・センター職員が安全に働けることは大切なので、どのような形で提言に入れられるか検討させてほしい。

奈良会長　　・工藤委員の発言をどのような形で反映できるか事務局で検討してほしい。

・次に、協議事項のウ「大田区地域包括支援センター運営方針の改正について」事務局より説明をお願いしたい。

黄木課長　　・地域包括支援センター運営方針は、介護保険法施行規則で地域包括支援センター運営方針に示す内容として提示されている９項目を基本として、平成30年度第１回の運営協議会で協議後、平成30年8月１日に制定している。

この運営方針は、地域包括支援センター基本方針及びおおた高齢者施策推進プランに基づき制定しているが、令和３年３月に策定されたおおた高齢者施策推進プランに合わせ、文言などを一部修正している。

・主な変更点は「地域包括ケアシステムの構築について（第２条）」を、地域包括ケアシステムのさらなる推進に修正、また、認知症高齢者への対応及び支援については、認知症施策推進大綱でも打ち出されているチームオレンジの活動の文言を追加している。

・今回、修正案についてご協議をいただきたい。

奈良会長　　・事務局案の説明に対して、質問は特にないか。了解いただけたということで次の議題に移る。

・報告事項ア　機能アップ２か年計画の策定について事務局より説明をお願いしたい。

黄木課長　　・機能アップ計画は、平成29年度の第三者評価をもとに地域包括支援センターの機能強化の一環として取組んだ事業。３年後の目指す姿の実現に向けて各センターで具体的な取組を設定し、毎年度取り組んできた。

・平成31年度から３年間取り組む中での成果として、中長期計画の作成により各センターが事業を可視化できた点、運営に関する項目も加えた計画立案により、センターの機能強化を図ることができた点などがある。

・一方で、センターを取り巻く環境や新型コロナウイルスの影響で、当初計画していた事業実施が難しくなったという状況もあった。

・区としては、中長期計画に取り組むメリットを勘案しつつ、従前の計画書から形式を変えながら、継続して機能アップ計画の取組を実施していきたい。

・大田区が目指す姿や基本方針を踏まえた計画とするために、「おおた高齢者施策推進プラン」の終期と合わせ、従来は３か年計画としていたものを、令和４年度から令和５年度までの機能アップ２か年計画の取組にしていく予定。

・計画作成に向けた取組として、10月28日にセンター職員向けに説明会を実施した。計画作成にあたっては、高齢福祉課・地域福祉課がともにセンターの計画作成の支援を行っていく。

奈良会長　　・説明に対して質問等あるか。

・報告事項イ「福祉講演会の開催について」事務局より説明をお願いしたい。

黄木課長　　・地域包括支援センター職員研修の一環として、福祉講演会を開催する。今回は、「地域包括ケアシステムのさらなる推進にむけて―個別支援と地域づくりの連携―」というテーマでの講演と、センター職員・社会福祉協議会の地域福祉コーディネーターを交えたトークセッションを予定。

・運営協議会委員にもぜひご参加してほしい。

奈良会長　　・委員にはメールで案内が来るので、申し込みしないで参加できるということで承知した。

澤 課長 　　・「つながれスペシャル体操」についてご報告させていただく。

・糀谷・羽田地区では老人いこいの家とシニアステーション４か所をつないでリモートでの体操教室を開始した。参加者の反応を見ながらペースを調整し、参加者の質問に回答できるなど双方向で〝つながる〟ことができるよう検討した。

・大田区全体で実施可能と考えている。第１回目にはシニアクラブの会長が自宅から参加した。

・提言のテーマ案⑤「リモート環境を取り入れ」、としている部分の実現に寄与するものと考える。

奈良会長　　・１か所から配信するとして、サテライト会場にも係員を配置する必要はあるのか。

澤 課長 　　・シニアステーションには職員がいるので、プロジェクターの操作等を行うことになる。シニアクラブが会館等に集まって参加する場合は自主的に操作することになる。

中原委員　　フレイル予防は地域ぐるみで取り組むことで、効果が出てくるとの研究もなされているので、その視点を持ちながら取り組んでいただければと考える。

奈良会長　・素晴らしい取り組みなので、その時間にいなくても記録したメディアを別の時間や場所で活用したり貸し出しできてもよいのではと考える。いろいろなアイデアを出してほしいと思う。

澤 課長 　　・この事業実施にあたっては、地域福祉コーディネーター・地域包括支援センター・老人いこいの家・シニアステーション・講師の理学療法士等いろいろな機関が連携して実施することになった。地域ぐるみの視点を忘れずに発展させていきたいと思う。

奈良会長　　・以上で議事は終了となるが、ほかに発言があれば伺いたい。

清水委員　　・先ほどの工藤委員が発言されたセンターの安全確保について、どのように対応するのか。

工藤委員　　・現在は警備ボタンをつけている。ただボタンを押してもすぐに駆け付けてくれるわけではない。区にもいろいろお願いしながら検討している。

清水委員　　・職場における安全確保はいちばん大切なこと。その点については是非対応してほしい。

黄木課長　　・安全性の確保については、通報方法や逃げ場の確保などいくつかの方法を検討し工藤委員とも相談しながら取り組んでいる。

清水委員　　・直近の土曜日、１１月２０日の対応はどうなっているのか。

工藤委員　　・事態が起きてから１か月ほどたってしまっているが、毎週現状通りで新しい対応ができていないのが現状。

奈良会長　　・残念ながらその状態が続いている。体制をすぐに変えることは難しいが、早急に対応しなければいけない状態であるとのことで区の方でも最大限のサポートをお願いしたい。

清水委員　　・民間であれば対応できなければ警察に、となる。民間とは違うが、安全が確保できないならば閉鎖もありうると感じる。

工藤委員　　・区の対応改善について早急に行ってもらえるか見極めていく。

奈良会長　　・重大な事案だと思う。運営協議会・区・運営法人・現場のセンターそれぞれ最大限の努力をして対応していただきたいと思う。

・活発な議論ができたと思う。ご協力に感謝して事務局にお返しする。

黄木課長　　・活発な議論に感謝する。頂いたご意見を踏まえ、今後検討させていただく。